

「世界経営者会議」が、10月29日、30日の2日間、東京・芝公園のザ・プリンス パークタワー東京で開催され、国内外のグローバル企業経営者たちが自社の経営戦略について語った。

初日午前中のセッション「グローバル競争を勝ち抜く経営戦略」では、富士フイルムホールディングス株式会社の古森重隆代表取締役社長・CEOをはじめ、米ファイザー、蘭フィリップスのCEOなどが登場した。

古森社長が就任した2000年当時の富士フイルムグループの連結売上高は1兆4403億円、営業利益1497億円であったが、2008年3月期（予想）はそれぞれ2兆8500億円、2000億円と過去最高を更

世界経営者会議

富士フイルム古森社長が講演

「経営者には“野性”が必要」



「第2の創業」を力強く語る古森社長

企業文化の変革に挑む

新する見通しである。古森社長は、「急速なデジタル化による感光材料の激減に見舞われ、社

内には先行きへの不安から停滞感が満ちていた。しかし、私は大きなピンチを革新のためのチャン

スと捉え、「第二の創業」を掲げて積極的にチャレンジしてきた。一歩踏み出し、業績数字が改善し

入ると同時に、新たな事業の構築も進めている。富士フイルムが培ってきたプリントの色褪せを防ぐ抗酸化技術やフィ

過去に答がないこと、分らないことに対して答を出していく作業である」と述べた古森社長は、「知力に加え、気力、体

始めると、社員も元気をだし変わりだした」と振り返り、「デジタル化への対応を早くから図り、

新たな価値の創出を目指している。

野性とは、勇気や強い意志、本能的な感覚などだ。私も、やらなければいけないことを絶対にやり抜く、という強い気持ちで変革に取り組んだ」と話した。

同社は、2009年の創業75周年を期して、中期経営計画「VISION75」を策定した。新たな成長戦略の構築／経営全般にわたる徹底的な構造改革／連結経営の強化／社員のパワーアップと活性化の4つの基本戦略を柱としている。成長

古森社長は、デジタル化に直面し方向転換を迫られた時も、「社員の意識転換と企業体質の変革が一番難しく大変だった。問題点を明確にし、意見をオープンに言い合える職場風土が大事。それを根づかせることが私の使命である」と話した。

今後の課題については、「銀塩の技術は170年続いているが、今の富士フイルムのコア事業はともをそこまで続かない。次にやるべきことを常に追い求め、変化し続ける会社、成長し続ける会社にならなければいけない」と述べた。

また、企業経営とは、